

事業評価票

114	東京都ベンチャー技術大賞（世界発信コンペティション） （産業労働局商工部／一般会計）	事業開始	平成 10 年度
		事業終期	平成 32 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか	
○ 循環型社会づくりに貢献する技術等を開発する中小企業を表彰する事業として、平成10年度に「東京都産業技術大賞」を開始した。その後、12年度に「東京都ベンチャー技術大賞」に名称変更した。 ○ 都内中小企業が保有する世界に誇る革新的で将来性のある優れた製品・技術を表彰し、中小企業の開発意欲を喚起するとともに、広く製品・技術を知らしめ、中小企業のビジネスチャンス拡大を促し、産業の活性化と更なる雇用の創出に結びつける。	
根拠法令等	世界発信コンペティション実施要綱

2 どのように取り組み、どのような成果があったか	
○ ウェブサイトや都が主催する展示会での広報活動の他、海外販売促進用の英文冊子を作成してJETRO等に配布する等広くPRを実施。 ○ 研究開発助成、融資、市場開拓支援、有限責任組合による直接投資や、技術相談、実地技術支援、経営相談など既存施策の有機的連携による複合的な支援を行っている。（支援後に上場した企業は8社）	

3 どのような課題や問題点があったか	
○ 応募件数の伸び悩み 製品・技術部門は89件と前年度比13件の増であったが、目標数（100件）は未達成の状況となっている。 ○ 都内中小企業の受注機会拡大を目的として、企業が開発した製品・サービスを表彰する「世界発信コンペティション」を平成28年度から予算計上しており、効果的な事業展開を図る必要がある。	

4 局として、事業をどうしていきたいか					
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他		
○ 「世界発信コンペティション」で、製品・技術（ベンチャー技術）部門とサービス部門を同日表彰することで、事業の効率化を図り経費を縮減する。 ○ 国内だけでなく海外に対しても受賞企業情報を広く発信し、より一層ビジネスチャンス等の拡大を促進する。 ○ 応募対象企業に確実に届く費用対効果の高い広報活動を検討し、応募件数の増につなげる。 ○ 英文冊子の活用等、受注機会の拡大につながるような受賞後のアフターフォローに引き続き力を入れる。					
歳入	27年度決算額	－ 千円	歳出	27年度決算額	18,744 千円
	28年度予算額	－ 千円		28年度予算額	22,086 千円
	29年度見積額	－ 千円		29年度見積額	10,935 千円

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか	
○ 「東京都ベンチャー技術大賞」と「世界発信コンペティション」両事業の目的や内容を踏まえた効果的な事業展開を図る必要がある。 ○ 同日表彰により、広報の一体的な実施が可能になるなど、事業運営に係る経費の縮減が可能である。	

6 29年度予算で、どのように対応したか			
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
○ 所要額を計上する。			
歳入	29年度予算額	－ 千円	
歳出	29年度予算額	10,935 千円	